

第56号

身近な福祉のパイプ役

生田地区社会福祉協議会

(題字 遠藤 恭 筆)

生田地区社会福祉協議会

川崎市多摩区登戸1891

第3井出ビル3階

電話 044(935)5500

発行人 西尾 信

編集 総務部



生田地区
社会福祉協議会
会長 西尾 信

ご挨拶

生田地区にお住まいの会員の皆様には日頃より生田地区社会福祉協議会の活動にご理解・ご協力ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和6年度は、ご承認いただいた全ての事業計画に取り組む事が出

来しました(内容につきましては、各部活動報告をご覧ください)。

令和7年度は、引き続き地域に密着した福祉活動に取り組み、地域の皆さんがお互い助け合い、安全で安心して暮らせる「地域共生社会」の構築に、役員始め全員で力を合わせ取り組んでまいります。

引き続きのご協力、ご支援をお願い申し上げご挨拶と致します。

「全国社協優良活動」受賞

生田地区社協の一部門を担う青少年福祉部は、昨年11月、全国社協が主催する令和6年度全国社会福祉大会においてその活動が評価され、「社会福祉協議会優良活動表彰」を受賞しました。11月26日浅草公会堂で開催された大会の授賞式に西尾会長が出席しました。

受賞理由は、青少年福祉部が50年に亘り過去の諸先輩方と共に築きあげてきた「中学生が語る会」の活動が優良であると評価されたためでした。

この「中学生が語る会」とは、生田地区社協が中学校と協働して地域福祉教育の推進を図るものであり、生田中学校・南生田中学校・枳形中学校の3校と協働する福祉教育活動です。

近年の活動を紹介しますと、コロナ禍の令和2年と3年には「医療従事者にエールと感謝を伝えたい」という生徒たちの強い思いから、地域の医療機関や

消防署へ、寄せ書きや感謝のポスター等を多数贈呈しました。

その後、贈呈先の方々から「私たちが応援してくれていることはとても嬉しい、心から感謝します」というメッセージが届き、これを受け取った生徒たちは大いに達成感を感じていました。

また令和4年から生徒たちは、川崎市社協が推進する赤い羽根共同募金の街頭募金活動に協力してくれています。

街頭で募金してくださった方からは「生徒の皆さんが活動しているのを見て募金しました」とのお声もいただきました。

このような活動は、中学校3校の校長先生はじめ諸先生方のご協力、そして生徒たちの若い発想力や行動力があってのことです。皆様には改めて感謝申し上げます。

生田地区社協は、今後も中学校3校と協働して地域福祉教育の推進を図ってまいります。

[石垣恵美子]



● 総 務 部 ●

令和6年度は、広報誌「社協いくた」の発行、理事の研鑽を目的とした理事研修会と部会研修会、他地区社協との交流会、福祉感謝の集いを実施しました。

中でも「福祉感謝の集い」は、社協賛助会員の皆さんへの感謝を伝えるため区民の皆さんに公開しています。令和6年9月20日に多摩市民館にて実施し、約85名の方々に参加いただきました。

第1部は、栗谷囃子保存会による演舞で、様々な世代の演者が、笑い声、手拍子、拍手が起こるパフォーマンスを繰り広げました。第2部は、4人組のThe Dankai Dawnsによる団塊世代の歌を中心にした心に染み入るコーラスと演奏でした。

総務部は活動の円滑な運営と広報のため努力して参ります。引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。
[野島啓子]



● 理事研修会に参加して ●

令和6年度の生田地区社会福祉協議会の理事研修会は、令和6年12月10日に茨城県つくば市にある「防災科学技術研究所つくば本所」に総勢25名で行って来ました。地震大国である我が国では、防災科学に対する関心が高く、今回の研修会は希望する日程でなく、ピンポイントで空いている日時での研修実施となりました。同研修所は、戦後最大の風水害といわれる伊勢湾台風(1959年9月)がきっかけで設立され地震・気象・災害に関する研究や情報発信を行う国の研究機関であり、1963年4月科学技術省が所管する国立防災科学技術センターとして発足し、2023年で60年が経過しました。

到着後、まず座学で「防災科学の研修施設や研究活動」等の映像を視聴しその後、展示ルームで展示品の説明をお聞きしました。リアルタイムで日本全国の地震の状況がわかるモニター「防災地震WEB」の説明があり、更に地震計の過去からの最新機器までの展示等もあり、非常に興味深く研修する事が出来ました。また阪神淡路大震災以前は全国で地震感知の設置箇所が数ヶ所であったが、30年以内に80%の確立で発生するといわれている「南海トラフ地震」も見据え、設置を増設し現在は1万ヶ所以上設置されているとの説明があり、対応の早さに感心すると共ににより一層の防災行動力を高めていく必要性を感じました。その後、体験コーナーの「地震ザブトン」

● 高齢者・障がい者福祉部 ●

令和6年度の「長寿を楽しもう」は10月に土淵倶楽部、生田出張所大会議室、東生田会館、西三田団地集会所、大作自治会公民館、南生田中学校、錦ヶ丘老人いこいの家、11月に長沢自治会館の計8会場で開催されました。各会場とも体操で身体をほぐし、日常生活における健康への留意点を学んだ後、レクリエーションを楽しみました。レクリエーションは会場ごとに、プロのマジシャンによるマジックショーやバンド演奏、歌謡ショーなど工夫を凝らした内容で、大変充実した会となりました。参加された皆さんは、楽しさに時の経つのも忘れて、会場は終始明るい笑い声に包まれて、盛会のうちに終えることができました。

今後とも参加者の皆さんの、期待に添うような企画を提供していきたいと思います。
[田中正巳]



を代表8名が体験しました。こちらは過去日本で大地震の発生した全国6ヶ所(熊本地震・新潟中越地震・東北地方太平洋沖地震・新宿高層ビル振動シミュレーション他)の波形の揺れを忠実に再現体験できる装置であり、各自それぞれの場所を選び、地震の揺れを体験しましたが、構えてもその揺れの大きさに驚き、必死に椅子にしがみついていた。また当日は見学が出来ませんでしたが、「巨大岩石摩擦試験機」「大型降雨実験施設」等世界有数の実験設備があり、レジリエンス※な社会づくりに貢献されています。現在、我が国は毎年全国各地で大災害が発生していますが、我々も防災科学技術を正しく理解し地震に備えることの大切さを感じる体験でした。研修の後は、近くの「ポケットファームどきどきつくば牛久店」へ立ち寄り地元の特産品を買い求め帰路につきました。
[山本 隆]

※レジリエンスとは、予測力・予防力に回復力を加えた総合力のこと



● 青少年福祉部 ●

第50回「中学生が語る会」を令和6年12月6日生田中学校、枳形中学校、南生田中学校の生徒合わせて37人と共に生田出張所で開催致しました。

テーマは「『放課後の居場所up! (アップデート)』地域見守りネットワーク」で、生徒たちは3つのグループに分かれ、第1グループ「居場所としての学校」は、複数の部活に参加できる仕組みや他校との交流を提案。第2グループ「居場所としての地域」は、雨の日でも遊べる場所や相談しやすい環境づくり、安全な地域のための街路灯設置や遊具の確認を求めました。第3グループ「自分を高める居場所」は、子ども食堂でのボランティア活動やリーダー研修会の開催を提案しました。

生徒たちの提案を1つでも実現する事が出来るよう私たち大人も一緒に考えたいと思います。

[塩崎健司]



● 婦人幼児福祉部 ●

毎月第3木曜日、生田中学校創作活動センターで子育て支援「ニコニコ広場」を開催しています。

歯科衛生士、保育士、保健師のお話や、魚釣りゲームやパネルシアターなど行い、平均8組の親子が参加。和やかな交流の場になっています。

令和6年度の部会研修会として10月24日に「川崎市夢パーク」で視察研修を行い部員18名が参加しました。夢パークには冒険遊び場と2階建ての建物エリアがあります。

夢パークのアドバイザー西野博之氏が「子どもを取り巻く環境、学校と子ども、子どもの命の尊さ、といったテーマの講演、“生きていてよかった楽しい”と実感できる場を学校以外のどこかで設けてあげたい」と講演、パーク内も案内してくださいました。「フリースペースえん」では30人ほどの子どもとスタッフが勉強や昼食の準備を賑やかにしていました。夢パークの見学とフリースペースの現状を学べ有意義な研修でした。

[遠藤啓子]



● 会食会委員会 ●

会食会委員会活動は、川崎市社協高齢者ふれあい活動支援事業の補助を受け、枳形老人いこいの家、錦ヶ丘老人いこいの家、長沢自治会館、生田出張所で年間6回の会食会を開催しております。

対象者は概ね65歳以上の高齢者のうち、単身者、高齢者のみの世帯の方、日中一人でお過ごしの方など外出機会や会話が少ない方です。

スタッフの民生委員・児童委員が限られた予算の中お弁当やカレー、食卓が華やかになるようにランチョンマットなど毎回創意工夫をしています。

食事の後はお楽しみとして手品、プロレス、フラダンスなど演芸の時間を設けて会場全体で楽しい時間を過ごしております。参加者からは「おいしかった、楽しかった」と喜びの声が届いておりとても充実した会食会となっています。

[福岡仁司]



● お年寄りのつどい実行委員会 ●

第40回生田地区お年寄りのつどいが令和6年11月5日、多摩市民館大ホールにて実施致しました。

生田地区にお住まいのお年寄りの方々の「いきがいの場所」「ふれあいの場所」として、楽しく過ごしていただく演芸会を開催しました。

開会式には、佐藤直樹多摩区長をはじめ7名の御来賓方のご出席をいただきました。

老人クラブの方々による、唄、踊り、フラダンスなど16団体、125名の参加者の演芸があり、日頃の練習の成果を発表していただきました。

唄により声を出すこと、踊りにより体を動かすことが、健康づくりに大事で、大舞台で皆さんの姿は笑顔で楽しく元気いっぱい生き生きと輝いていました。皆様のご協力を頂き盛況のうちに閉会できましたこと感謝申し上げます。

[米山文治]



おじゃまします

地域での取り組み

レディアントシティ 向ヶ丘遊園



生田緑地は、太古からの自然をそのままに残す都市の聖域です。都心からほど近い距離にありながら、自然とのふれあいを心ゆくまで楽しめます。広大な敷地には、花木や生き物たちの瑞々しい生命力が満ちあふれています。その生田緑地と隣あう場所にレディアントシティ向ヶ丘遊園750世帯の町会があります。毎年、町会ではイベント並びに自主防災組織による防災訓練を実施しています。

毎年12月に実施しています、クリスマスコンサートには近隣の大学生によるオーケストラ演奏会で、100名以上の住民があつまります。大学生と子供との楽器によるコラボ演奏はクリスマスの夜を大いに盛り上げています。

私達の町会で、2月に実施している防災訓練は、消防署と住民との合同で取り組んでいます。大規模災害が発生し、公的防災機関だけでは対応しきれなくなった場合に力を発揮するのが自主防災組

織です。自主防災組織とは、地域住民による任意の防災対応組織です。阪神・淡路大震災の際、がれきの中から救出された被災者の7割は「家族や近所の人」によって助け出されたという調査もあります。このような住民同士の支え合いは、災害発生後の避難生活が長引く場合にも、困難を乗り越える大きな力になります。

「自分たちの町は自分たちで守る」という心構えで自主防災組織に積極的に参加し、災害に強い町づくりを目指してまいります。

[管理組合 会長 坂井健二]



令和6年度 生田地区社協事業報告

次のとおり事業を実施いたしました

5・30 第1回 高齢者会食会 (錦ヶ丘老人いこいの家)
5・31 生田地区社会福祉協議会総会 (生田出張所)

7・31 広報紙「いくた」臨時号発行

9・20 福祉感謝の集い (多摩市民館)

9・26 第2回 高齢者会食会 (耕形老人いこいの家)

10・3月 赤い羽根共同募金活動

10・1・3 赤い羽根共同募金 街頭募金活動 (生田駅、読売ランド前駅)

10・3月 賛助会員募集活動

10・4 長寿を楽しもう (土淵倶楽部)

10・7 長寿を楽しもう (生田出張所)

10・8 長寿を楽しもう (東生田会館)

10・17 長寿を楽しもう (西三田団地集会所)

10・22 長寿を楽しもう (大作自治会公民館)

10・24 婦人幼児福祉部視察研修 (川崎市子ども夢パーク)

10・25 長寿を楽しもう (南生田中学校)

10・29 長寿を楽しもう (錦ヶ丘老人いこいの家)

11・1 長寿を楽しもう (長沢自治会館)

11・5 第40回 お年寄りのつどい (多摩市民館)

11・7 第3回 高齢者会食会 (長沢自治会館)

12・3 高齢者・障がい者福祉部視察研修会 (神奈川県立さがみ緑風園)

12・6 第50回 中学生が語る会 (生田出張所)

12・10 理事研修会 (防災科学技術研究所つくば本所)

1・23 第4回 高齢者会食会 (耕形老人いこいの家)

2・1 第5回 高齢者会食会 (生田出張所)

2・13 総務部 視察研修 (至誠館さくら乳児院)

2・21 総務部 交流会 (他地区社会福祉協議会との交流)

2・27 第6回 高齢者会食会 (錦ヶ丘老人いこいの家)

3・31 広報紙「いくた」第56号発行

毎月第3木曜日子育てサロン「ニコニコ広場」

『賛助会員募集』

賛助会員とは、多摩区社会福祉協議会と多摩区内の生田地区社会福祉協議会を含めた5つの地区社会福祉協議会(登戸・菅・中野島・稲田・生田)が進める地域福祉活動の趣旨にご賛同頂き、一口1,000円の賛助会費を納めていただくことで地域福祉活動を支援していただくものです。

令和6年度の募集は、例年の個別訪問での募集となりました。その結果、昨年の実績と大きく変わらない金額 1,362,000円(2月26日現在)が生田地区内で集まりました。

ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

『共同募金運動』

令和6年度生田地区分会実績

赤い羽根協働募金 2,908,930円

年末たすけあい募金 2,266,244円

皆様からの募金は地域の社会福祉に役立てられます。ご協力ありがとうございました。

